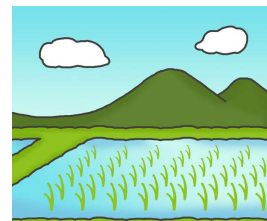


根の健全化を促しましょう！



1. 分けつ期の水管理～ほ場のワキ(還元)対策

北陸地方の向こう3か月の天候は気温が高めの予報となっております。そのため地水温が上昇し生わらや有機質等の分解により発生する有害なガス(ワキ)が発生します。ワキの発生は根の伸長を阻害し、その後のイネの生育を抑制する可能性があります。

見出しにも記載しましたが、今年は田植え後の地水温が上昇し活着の促進も考えられる反面、ワキの発生には十分な注意が必要であり、こまめな水の駆け引きが重要となります。

《分けつ初期から中期のワキの程度と対策》

ワキの程度	生育への影響	対策
水田に足を踏み入れても気泡が発生しない。	なし	-
水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する。	根張り不良	水交換
晴天時自然に気泡が発生し、音が聞こえる。	根の伸長阻害地上部黄化	夜間落水、田干し

ワキの程度に応じた「水交換」「夜間落水」「田干し」を行い根の健全化を図りましょう。

また、水を交換する場合はできるだけ早朝に行い、日中は止水とし水温上昇を図り分けつの発生を促しましょう。

☑ 追肥を検討する前に、ほ場のワキの状態を確認しましょう！

基肥をしっかり入れたはずなのに、葉の色が薄い、葉先が黄色くなっているなどの要因として「ガス」が溜まって根の伸長が阻害されていることが考えられます。

追肥を検討する前にワキの状態を確認し、気泡の発生が甚大な場合は軽く田干し(1~2日間落水)を実施しましょう。⇒ガスが抜け、根に酸素が供給されて根が地中深く伸びるようになります。

2. 中干しと溝切り

適正な生育量の確保や生育後期の稲体を健全に保ち、登熟を良好にするための重要な技術です。

～登熟歩合や千粒重の向上により品質・収量を確保しましょう。～

■中干し・溝切りの効果

- ① 無効茎の発生を抑制し適正生育量が確保されます。
- ② 下位節間の伸長が抑制され倒伏を軽減する効果があります。
- ③ 土壌への酸素供給より根が健全化されます。(直下方向の根の伸長促進)
- ④ 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保が容易となります。
- ⑤ 溝切りによりフェーンや水不足等の緊急時の迅速な灌水が可能となります。
- ⑥ 溝切りにより秋の長雨等による収穫前の停滞水の排水が容易となります。

※大區画ほ場ほど灌水に時間がかかるため、可能な限り溝切りを実施しましょう。

★中干し、溝切りの開始時期★

田植え後30～35日をめやすに実施しましょう！

中干し開始は目標茎数の7～8割程度確保した時期。生育過剰になりやすいほ場では、より早めの6～7割の時期に開始しましょう。中干しの開始時期が遅れると、生育や粒数の過剰となり、品質低下を招く恐れがあります。

【コシヒカリ中干しの開始時期のめやす】

栽植密度	中干し開始の茎数めやす(※)	
50株/坪	270本/m ²	18本/株程度
60株/坪		15本/株程度

※目標穂数(コシヒカリ 340本/m²)の80%



3. 病害虫防除対策

- ◆農道・畦畔などがカメムシ類の生息地となるので草刈りを徹底しましょう。
- ◆カメムシ類のエサとなるイネ科雑草が穂をつけない間隔で草刈りを実施しましょう。
- ◆水田内のヒエ、ホタルイもカメムシ類の増殖源となるので注意しましょう。
- ◆補植苗はいもち病の発生源となるので速やかに撤去しましょう!!

J A 北越後 斑点米防止計画

草刈り重点推進期間

第1回 6月15日(水)～6月30日(木)

第2回 7月15日(金)～7月31日(日)

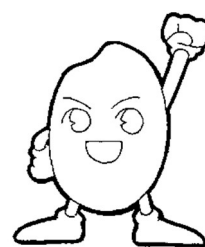
※雑草が結実しない間隔で適宜草刈りを実施しましょう。

農道畦畔一斉防除期間

7月8日(金)～7月10日(日)

～地域一斉のカメムシ防除で斑点米ゼロを目指しましょう～

※各地域防除協議会の病害虫防除計画をご確認ください。



4. 中間追肥・中後期除草剤

- ◆中干し終了後(6月下旬頃)中間追肥で稲体の強化、根の健全化を促しましょう!
- ◆取りこぼした雑草や後発難防除雑草は中後期剤を早めに処理しましょう。



お求めは別紙『中間追肥・中後期剤申込書』でお申し込みください。予約価格でお得です!

※お電話での予約申込みも承ります。(配送センター・最寄の購買センターまで)

■配送センター TEL 26-7700

■聖籠購買センター TEL 27-5738

■川東購買センター TEL 25-2714

■紫雲寺購買センター TEL 41-3120

■豊浦購買センター TEL 22-2319

※旧営業所ポストへ投函頂いても結構です。

※川東・聖籠購買センターの繁忙期休日営業は5月29日(日)をもって終了させていただきます。